

会報 塩原

令和元(2019)年8月

いちご一会とちぎ国体の成功をめざして。
Web会報「塩原」の発行。

塩原カントリークラブ
理事長 古泉桂四郎



開場50周年の記念大会には、会員はじめ多数の皆様の参加で、盛大に開催されました。厚く御礼申し上げます。

令和4年(2022年)の秋には、第77回 国民体育大会が「いちご一会とちぎ国体」として栃木県で開催されます。那須塩原市の担当する競技は、サッカー・ソフトテニス・馬術・ゴルフ・トライアスロンの5種目です。ゴルフ競技場は、ホウライカントリー倶楽部、西那須野カントリー倶楽部、塩原カントリークラブとなっています。塩原カントリークラブは、女子ゴルフ競技場に指定されています。競技会の成功のためには皆様方のご協力とご助言が不可欠ですので、よろしくお願い致します。(国体開催期間 2022年10月1日~11日)

6月6日の理事会の席で、フェローシップ委員長より提案がありました。塩原カントリークラブのホームページを利用した、Web版の会報「塩原」を定期発行するという企画です。国体の準備状況、コースの整備、運営などに関する情報を中心に競技成績などを盛り込み、メンバー・ビジター・スタッフの間で、情報の共有化を図り、国体成功の一助にしようということです。経費の節減も可能であるとのことで、理事会出席の皆様のご賛同が得られました。Web版会報移行前に、簡潔な紙媒体の会報を発行し周知することとなりました。

新しいWeb版会報「塩原」を楽しみにしています。



Web会報・「塩原」 発刊

塩原カントリークラブ(メンバー組織)は9月から、塩原ゴルフクラブのホームページにweb版の会報を開発する。月一回の更新を原則とするが、緊急情報についてはその都度更新、追加を行い随時、メンバーだけでなく、ビジターが読んでも「塩原」の今がわかるような構成とする。

国体の女子ゴルフ会場になることが決定し、遠来の選手、選手関係者、ファンに対し、恥ずかしくないコース整備、運営、おもてなしを実現するために、メンバー、ビジターを問わず意識を共有することが欠かせないと考え、かつて月刊で発行していた会報「塩原」の引き継ぐものとして開設する。主な内容はニュースのほか「ゴルフライフ」の紹介、所属の中里鉄也プロからのアドバイス、栃木県初のプロで日本オープン2勝など数々の戦績を残して4月に逝去した小針春芳プロ人生をたどる読み物、スタッフ紹介など、この会報「塩原」の内容を主軸に展開する。

ゴルフ場「塩原」の運営などへの感想、提案などの投稿を歓迎しており、塩原ゴルフクラブのメールアドレスにネット送信するか、手紙で「会報原稿」と明記すれば受け付ける。編集を担当するフェローシップ委員会が事前にチェックするが、個人の名譽を傷ついたり、公序良俗に反しない限り内容は自由。委員会では「メンバー、ビジターにかかわらず、より良いコースにするためのご意見を待っています」と期待している。

妄想と緊張

吉松 孝文



吉松夫妻

6月18日、突然妻から「あなたと2人で青山薫プロとのテレビ録画の依頼があるけどどうする?」と言われた。一体、何が起こったんだ?テレビ出演?なぜ?

よくよく聞いてみると『『ゴルフの王様』(栃木テレビ)の会場に塩原CCが選ばれ6月26日に4組(1組2名)が2ホールごとに、青山薫プロ、じんのすけさんとのマッチプレーをやる録画撮りがあり、声がかかった』という。

ふたつ返事で「それは、出演するしかないやろ。塩原CCからの依頼であれば断れんわな」。関西出身でもないのに思わず関西弁になってしまった。

それから、妄想の毎日。依頼があったのは、ボクの映りがいいからなのかな?

コース、ホールはどこかな?北の1,2番は嫌だな、それから南コースの5,6番も。OBだけは避けたいな、チョロはカッコ悪いしな。

ビシッ発!プロに勝ったらどうしよう……。仕事中でもいろんな想像が頭をよ切った一週間であった。

さて、6月26日、録画撮りは11:00過ぎから。梅雨とは思えない素晴らしい晴天。妻から「何着ていくの。あなたとカブるのは嫌よ」と言われ、悩んだ末にウエアをチョイス。キャディーマスターからは「ゴルフが出来ればいいですから」と言われたそうだが、そう簡単には行かない。

10:30過ぎにパッティング練習をしていると、堀越社長から「南コース7,8番でお願いします」と告知され、「えっ、難しいやん。もっと簡単どころが良かったのに……。間髪をいれず、「早まって

いますのでカートで誘導します」。

7番ホールで待っていると、6番で録画撮りが始まった。「やってる。やってる」。遠くから見ているので、状況はよくわからないが、確実に時間は迫ってきていて、徐々に緊張感が増してきた。

いよいよ本番。青山プロの後のティーショット。案の定、見事なチョロ。やっちゃったぜい!!!

その後、妻がグッドショット!!3歩下がってついて来て欲しかったな。でも、ベストボール方式なので妻のボールを選んで、フェアウェイから150ヤードの第2打。薄い当たりだったけれど、自分としてはまあまあ。グリーン上に落ちたが奥にこぼれてしまった。しまった、アドレナリン沸騰!!先に打った青山プロも奥にこぼれていたが、「やっぱりな」とニヤニヤ。

2打目もピン手前20ヤードにつけた妻のボールを選択。3打目もピン奥3に止めた妻のボールを選択。若干のスライズラインを読み切り、ナイスパー。夫の面目躍如。いいとこ取りだったが、ヨッシャ、ヨッシャ。

ちなみに、青山プロは、奥からのロブショットが寄らず、2パットのボギー。これで負けはない。ホッ。8番は青山プロがパー、我がチームはボギーで負け。結局、2ホールで引き分け。

青山プロはティーショットのアドレス、アプローチショット、パッティングと親切に教えてくれた。また、せり出した松の枝下を抜くショット、フェアウェイバンカーからの素晴らしいソパチンショットほか、プロの技を堪能させていただいた。

時間にして1時間半の録画撮りだったが、思い返してみると、当日までの妄想の数々と緊張感はいい年のオッサンでもなかなかワクワクするものであった。波風のない田舎暮らしに、時には刺激は必要であることを改めて実感した一日であった。

※放映日程 8月4日、11日、18日、25日 AM8:30~
再放送 8月5日、12日、19日、26日 PM8:30~



加藤石井ペア



田中親子ペア



高田薄井ペア



吉松夫妻



中里プロ

体験学習

厚崎中学校2年 螺良 颯希

塩原カントリークラブ様

お忙しい中、職場体験をさせていただき、ありがとうございました。

1日目は、フロントを体験させていただきました。最初は、緊張していて、声も出ませんでしたが、だんだん慣れてきて、声も少し出るようになりました。また、パソコン作業をする時は丁寧に教えて下さって、「フロントではこのような仕事をしているんだ!!」ということがわかりました。自分が思っていた仕事と違うところもあって、たくさん学ぶことができました。

2日目はマスター室の仕事させていただきました。お客様のゴルフバックを運ぶのがとても大変でした。そこにいた時間は短かったのですが、自分がプレーをしている時には見ることの出来ない仕事があって、とても楽しかったです。そして、1ラウンドのプレーをさせていただきました。プロと一緒に回ってくださり、色々、話をさせてもらい楽しかったです。

3日目にはコース管理の仕事でした。管理事務所に猫がたくさんいて、ビックリしましたが、可愛かったです。最初にやった、切った木の枝などをトラックに乗せる作業がとても大変でした。いいプレー環境を作ってくれてありがとうございます。

また、グリーンのカップを切らせてくださいました。初めて切ったので、下手だったかもしれませんが、とてもうれしかったです。ジュース、アイスもいただき、ありがとうございました。

4日目は、レストランの仕事でした。お昼の時間が忙しかったです。お客様が食べ終わらないと、自分は食べられなかったのでお腹がすきました。お腹はすいていても、お昼ご飯を作ってくれたり、料理を運んでくれたり、片づけてくださったり、食器を洗って次の客が食べられるようにしてくれたりしていることに、ありがたみを感じました。

5日目は風呂のタオルを畳んで置くことと、練習場のボール拾いをさせていただきました。タオルを畳む時の乾燥機が置いてある部屋は、とても暑かったです。夏にそこで、仕事をするのは大変だと思いました。ボール拾いも暑くて、とても大変でした。

一週間という短い間でしたが、仕事をする事の大切さと大変さを学びました。ありがとうございました。



小針春芳 1921(大正10)年4月24日生まれ 戦後プロゴルフ史を彩った那須の神様

現在の栃木県那須塩原市の農家に生まれ、高等小学校卒業後に那須GC(栃木県那須郡那須町)に就職した。キャディーをしながらゴルフの腕を磨き、1940年に那須GCで開催された関東プロ招待競技で研修生でありながら浅見緑蔵とのプレーオフへ。敗れはしたが高い評価を受けてプロに認定された。

戦争中は外地へ出征。ニューギニアで何度も死線をさまよった。長くゴルフから遠ざかっていたが復帰して55年の関東プロ決勝で中村寅吉を破って初優勝。以降、実力を開花させた。5番ウッドの名手として名を馳せ、拠点は故郷の那須一筋。「那須の神様」「那須の小天狗」の異名を持つ。

*日本プロゴルフ殿堂より引用

那須の小天狗・小針春芳伝

井上安正

「職人」とも称されたプロゴルファーが今年4月19日、静かに逝った。小針春芳、享年97。世間はそれを5月15日の朝刊が配られるまで知らずにいた。「那須の小天狗」「那須の神様」の異名でも呼ばれたこの人らしい旅立ちだった。どこまでも「天狗」で、「神様」であった。日本オープン、関東オープン、関東プロ、日本プロシニア各2勝、関東シニア、関東グランドシニア各1勝、関東ゴールドシニア5勝の計15勝。日本プロゴルフ協会代表も含め海外遠征7回。那須が生んだ、栃木県初のプロゴルファーの偉大な足跡を連載する。

小針は青木周蔵が開いた青木農場の入植者の長男として、大正10(1921)年に生まれた。昭和12(1937)年3月、当時の小学校を卒業して、国鉄の機関士にならなくて試験を受けた。筆記試験は合格したが、健康診断で色弱と判定されて涙をのんだ。幸いにその時、那須ゴルフ倶楽部がグランドオープンすることになり、キャディーとして雇ってもらった。16歳。キャディーがどんな仕事がよくわからなかった。だが、うるさ型のメンバーからの評価が高く、2年目でクラブを持つことを許され、所属プロや上手なメンバーのプレーを見よう見まねでゴルフを覚えた。

那須がクローズする3年目の冬からは、埼玉・川越市の霞ヶ関カントリー倶楽部へ行って修業することを許された。霞ヶ関は来年の東京オリンピック・バリンピックのゴルフ会場になる。小針は未来の五輪の舞台上で育てられたことになる。

昭和15(1940)年、那須ゴルフ倶楽部の第2回プロ招待競技会に出場が許された。この種の競技会では、新人プロさえ、ハンディ5が与えられるのが慣例だったが、春芳少年はもらえなかった。プレー出来るだけで幸せて、クラブはゴルフ場の貸しクラブで戦った。午前中の18ホールを終えて、3アンダーの69とトップでホールアウトした。午後の18ホールは4オーバーの76。合計145で浅見録蔵プロと並んで首位だった。

浅見は明治41(1885)年生まれで、前年に日本オープン、日本プロの二冠を制していた。その浅見とプレーオフとなり、9ホールでは決着がつかず、さらに9ホールをやってやっと2打差がついて、浅見が優勝した。

「浅見さんのボールはよく飛びました。パーシモンで280ヤードは出ていました。9番ホールは440と距離のあるパー4。浅見さんの第2打は5番アイアン、私はスプーン(3番ウッド)でした」

この競技会の午前中18ホールで出した69はコースレコードで、今でも破られていない。2位の賞金は50円、コースレコード賞50円と合わせ、100円もらった。春芳少年はこの賞金を、父親に渡した。その時の父の顔や言葉は、「覚えていない」と口を濁した。クラブ所属プロの月給が30円から35円だった時代のことである。一家をあげて、感謝の言葉を送ったに違いない。

那須ゴルフ倶楽部が「うちの所属プロとして認めます」と協会に届け、10月に栃木県初のプロゴルファーとして認定された。「県内初のゴルフ場が生んだ、県内初のプロ」が誕生した。19歳の若武者であった。

(つづく)

名手小針プロを偲ぶ

高橋良一

私が始めて小針さんのお姿を拝見したのは、昭和39年の初夏だったと記憶する。真っ黒に日焼けした顔、黒のスラックスに白いシャツ姿、小針プロが練習グリーン上でメンバーと思われる方を相手に、バッティングのレッスンを行っていた。

先輩に、あの方が小針プロだよと言われて得心がいった。既に日本オープン等を制し、正しく円熟期に入った小針プロ。四十半ばの年齢かと思う。小針さんの服装は、派手な色物は好まず、常に白や黒、紺、青といったような統一色であった。

伝統ある那須ゴルフ倶楽部の所属プロとして名声を高めていった小針さんだが、クラブハウスにおいては、メンバーさんと同伴して食事をしたり、お茶を飲んだりしなかったと聞いている。礼節を重んじてのことと思う。

小針プロが当クラブを訪れるようになったのは、昭和47年から始まった栃木オープン(名称は栃木県プロ招待オープン選手権大会)頃から。第2回大会では、144ストロークで2位タイの成績を取っている。

大会前に練習ラウンドに来場した小針さん。キャディーを借りて練習場へ。まず、150ヤード地点にキャディーを立て、7番アイアンの練習。低い球、高い球、ドロップボールを打ち分け練習に熱が入る。キャディーは歩も動くことなく集まったボールを拾い上げる。こんな光景を目にした。矢張り凄い。

飛ばすことだけではないんだ。如何に球をコントロールできるかなんだ。改めて思う。何回か来場しているうちに、初めて小針プロからレッスンを受ける機会に恵まれた。練習グリーン脇からのアプローチショット。そんなに硬くならなくてもいいんだよと言って笑われた。

なぜか那須の小天狗さんは優しくかった。

小針さんは車の運転をしないので、試合に出掛けるには、運転手が必要だった。試合に臨むに当たっては、当クラブの鹿毛隆男プロがその任に当たっていた。体型的にも似ている2人。何年か続いている内に師弟関係が結ばれたのではないかと。

小針さんの訃報が新聞に載り、この世を去った事を知った。大正・昭和・平成の三時代を生き、まもなく令和の新時代を迎えようとする今日、白寿を迎えられ小針さんに改めて黙祷。

秋が深まる頃には、那須のお山の空の上、極楽カントリークラブにてクラブを振っているかも知れない。

とちぎテレビ LOVE GOLF! LOVE TOCHIGI!
～ゴルフをもっと好きに! とちぎをもっと好きに!～

第8回 とちぎテレビゴルフカップ

9月予選会場 2019年9月12日(木) 定員160名
塩原カントリークラブ

お申込み・お問い合わせ TEL 0287-35-2211

参加費 8,500円 セルフプレー代・昼食代・諸経費
パーティー代・参加費を含む

栃木県那須塩原市折戸148

アマチュアゴルファー
男女参加者募集

■参加賞/「全員に参加賞をプレゼント」

開催期間 2019年6月～2020年3月に渡り

決勝出場資格
各予選会
とも

●総合(ネット)1位～40位、
特別賞及びBGGの方

●女性(グロス)1位～10位の方

予選会・決勝大会 豪華賞品をご用意
ともに

決勝大会は 2020年3月24日(火)
宇都宮カントリークラブ開催予定!

各予選会にて、決勝参加資格を獲得された方のみ出場可。

詳しくはとちぎテレビのホームページ
<http://www.tochigi-tv.jp/>
でご確認ください

LINE@の友達登録でゴルフ情報をお届け!

●協賛各社・協賛賞品一覧

ホテルサンパル・那須、アサヒビール、元氣寿司、もめん茶、大東工厚&口、宮食、
社間、マルカバ、パルス、日昇堂、那須どうぶつ王国(順不同) ※予定

とちぎテレビゴルフカップ協賛番組
ゴルフ王様II

コース攻略法を人気番組「ゴルフの王様II」でご紹介!

◆本放送 毎週日曜日 朝8:30～ 大好評放送中!!

◆再放送 毎週月曜日 20:30～ 大好評放送中!!

【司会/じんのすけ(だいまじん)】

●主催/とちぎテレビ ●後援/栃木県ゴルフ協賛会 ●協賛/とちぎまるゴルフクラブ



ジュニア育成

スナッグゴルフの普及活動

10/19・20にしなすの産業文化祭に出店

●コース委員会の活動について

- 委員会の役割(理念)
 - プレー環境の最適に寄与する事
(基本はコース管理作業の一助になる事)
- 委員会の目的
 - コース管理業務への協力、助言
 - ※提案やお願い事項(要望事項)とす。
(アラ探しや指導では無い)
- 委員会の活動内容
 - 1 開催日時は年2～3回 必要に応じて開催
 - 2 コース巡回し問題点の提起と管理者との協議
 - 3 他コースの状況や情報交換、新知識の交換と共有
 - 4 ボランティア(VOLUNTEER)活動

5 新ティーイング・エリア設置への協力
6 委員同士の親睦(今後)
7 キャプテン指示による活動(協議委員会と共同活動)
8 その他(会員や来場者等のコースへの依頼事項等の検討)

※上記事項を踏まえての委員会活動となります
コースは競技志向の方も親睦や健康管理の方でもプレーが楽しくできることがコース管理として求められることです。
2022年国体の女子ゴルフの会場としてまだまだ沢山の課題があります。課題を抽出し検討して行程計画を立て一日も早い実施が必要である。(これには費用と施工日数が必要で有る。一日も早い対応が望まれる)

コース委員会(早坂幸治委員長)は8月22日、コース内の老朽化した白杭(OB杭)の交換などを行う。委員以外のメンバーの参加を呼びかけている。当日は午前9時30分に集合、10時から作業に当たる。同委員会の調査で22本の杭が老朽化していることを確認、ゴルフクラブ側が新しい杭を用意している。
国体に向けてきめ細かなコース整備が求められるため、塩原カントリークラブでは、軽い作業で素人でもこなせるものについては、クラブ側のコース管理のアドバイスを受けて、ボランティアとして協力することになっている。多くのメンバーの参加を呼びかけている。